

様式第 5 号

出張調査報告書

令和 6 年 1 2 月 6 日

松伏町議会議長 田口義博様

会 派 名 自民クラブ

代表者氏名 増 田 等

下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	令和 6 年 1 1 月 1 8 日から令和 6 年 1 1 月 1 9 日
2 視 察 地	(1) 埼玉県秩父郡横瀬町 (2) 埼玉県秩父郡小鹿野町
3 視 察 目 的	(1) 公共交通網について (2) SAVS を使ったデマンド型乗合タクシーについて (Smart Access Vehicle Service)
4 視 察 者 氏 名	増田 等議員 (代表) 佐藤永子議員 (欠席) 高橋昭男議員 田口義博議員 砂川清時議員
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

自民クラブ行政視察行程表

1 期 日 令和6年11月18日（月）～11月19日（火）の2日間

2 視察先 （1）埼玉県秩父郡横瀬町
（2）埼玉県秩父郡小鹿野町

3 行程&スケジュール

日 時		内 容	備 考
1 日目 (11/18) 月曜日	9 : 00 9 : 30	せんげん台駅で合流 出発 幸手インター 東北道～圏央道～西関 東連絡道路	せんげん台駅でレンタカー借用 各議員せんげん台駅集合
	12 : 30 13 : 45 14 : 00 15 : 40	秩父市内昼食 道の駅見学 横瀬町役場着 視察開始 視察終了 宿泊先へ	両神国民宿舎 TEL 0494 - 79 - 1221
2 日目 (11/19) 火曜日	9 : 00 9 : 50 10 : 00 11 : 30	宿出発 小鹿野町役場着 視察開始 視察終了	
	12 : 00 14 : 50 17 : 00	道の駅両神温泉薬師の 湯 帰路へ 西関東連絡道路～圏央 道～東北道 浦和インター せんげん台駅着 解散	昼食

I. 横瀬町乗合タクシー（のりあいブコーさん号）に係る視察内容



横瀬町視察の様子



横瀬町役場玄関にて

1. 公共交通網について

路線バス：西武秩父行きの路線がある

輸送人員（人/年）		補助金（千円/年）	
		町	県
令和3年	5,636人	10,587	3,096
令和4年	5,340人	11,433	3,096
令和5年	5,570人	11,897	3,096

デマンド型乗合タクシー（のりあいブコーさん号）

（1）内容

令和3年から民間のタクシー会社（注1）に補助金を交付し事業展開している。全人口約7,600人に対し登録者数は550人で7.2%にあたる。補助額は、年間約1,700～1,800万円（交付税比率 80%）となっている。

オンデマンドでのリアルタイムの送迎支援システム（SAVS：Smart Access Vehicle Service 注2）の運行・実験地域となっている。現在アプリを使えない利用者が多いため、電話にてコールセンター受付で対応。マニュアルでSAVSのシステムに手入力しているので当面人件費が発生しているとのこと。乗合タクシー利用料金は1回当たり300円～500円

（2）導入理由

- ①交通空白市域を解消する目的で、停留所数が多く、目的地到達まで時間を要して利便性が低かったため。
- ②自宅から停留所まで直線距離で200メートルあり、ドア to ドアのサービスを求めるニーズが高かったため。

（3）利用状況及び収支

（4）成果

- ①高齢者が35%の横瀬町にとって、自宅と目的地を結ぶデマンドタクシーは町民の貴重な移動手段となっており。良質な行政サービスを提供しているといえるとのコメントがあった。

- ②利用者促進策として２年続けて利用券を配布した。今年度は新規顧客開拓を目的に既存顧客との金額を差別化した。新規顧客は昨年１８名、今年は昨同期比で１４名位の増員となっている。

(５) 課題

- ①補助金が嵩んでいるので、路線バスも含め効率的な行政経営を可能とする公共交通政策を策定する必要がある。
- ②利用者の９０％がコールセンターを利用しておりアプリの活用が進んでおらず、活用を促進する必要がある。

注１ 民間タクシー会社は秩父丸通タクシー（株）。乗合タクシーは横瀬町、小鹿野町、秩父市吉田地区をカバーしている。したがって、コールセンターはこれらの地域をカバーしているとのこと。SAVSは町ではなく、秩父丸通タクシー独自で導入したシステム。

注２ 送迎支援システム（SAVS：Smart Access Vehicle Service）は北海道函館市の（株）未来シェアが開発元。全国１５０か所で実証実験を行っている。

(６) 感想

副町長から、町は町民の生命と財産を守らなければならないという観点から、交通事故等を発生させないためにも、公共交通に費用を投入していくのは当然であるとの言葉に感銘した。

２. 町おこしについて

よこらば 町の未来を変えるために、外部からヒト・モノ・カネ・情報を継続的に流入させ、化学反応・活性化を促す活動を実施している。



まちづくりの実践や実証実験などチャレンジできるフィールドを提供している。お金ではなく、スピード感を期待

①内容

２０１６年１０月にスタートし、２０２３年１０月までの７年間で提案数２３４件に対し、採択１４１件。内予算措置事業は５件。

②考察

民間との連携事業が上手く機能しており、事業費の投入も少なくすばらしい取り組みである。人口減少、予算規模が縮小傾向にある中、町行政を維持向上するため、民間活力などの外力を活用する必要からの取り組みとの説明があった。

松伏町にも民間が主体となっている企画があるが、十分な発信が出来ておらず、もったいないと感じた。町が主体となってまずは方針を出し、全体の取りまとめを行う必要があると考える。

Ⅱ．小鹿野町営バス及び乗合タクシーについて視察内容



小鹿野町視察の様子



小鹿野町役場玄関にて

1．町営バスについて

- ①町営バス導入に至った経緯及びどのような体系（道路運送法等の適用等）で事業を実施されているのかご教示ください。
- ②バス路線の設定経緯についてご教示ください。（町民の意向等）
- ③事業者との契約はどのようにしているかご教示ください。
- ④事業収支についてご教示ください。
- ⑤これまでの実績から課題がありましたらご教示ください。

2．乗合タクシーについて

- ①乗合タクシー導入に至った経緯及びどのような体系（道路運送法等の適用等）で事業を実施されているのかご教示ください。
- ②利用登録制となっているようですが、登録者は何人で登録率はどの程度ありますか。また、1日平均の利用はどの程度ありますか。
- ③利用地域が設定されているようですが、その経緯についてご教示ください。また、タクシーの運行形態はどのように運用されていますか。
- ④把握できていれば、利用が多いルートはどのようなルートですか。
- ⑤事業収支についてご教示ください。
- ⑥これまでの実績から課題がありましたらご教示ください。

3．小鹿野町公共交通網所感

路線バス、乗合タクシーを主体に、自家用有償旅客運送、福祉輸送、スクールバスなど多様な輸送手段を駆使している。

- ・地域公共交通計画が重要である。
- ・民間業者とのすり合わせが重要である。（協力要請）

4. 考察

小鹿野町も秩父地域で唯一鉄道駅のない町であるが、地域の公共交通網の現状、住民ニーズを的確に把握しており、さらには具体的な課題と対応策を明確化した「小鹿野町地域公共交通計画」を作成し、着実に実行に移している。山間の鉄道のない町にとって公共交通は生活のために必要なもので、上下水道などのインフラと同等との強い認識があり、住民サービスの必須項目として真剣に取り組んでいる姿勢がうかがえた。

松伏町でも、冗長な調査・検討・議論のみではなく、町の方針をしっかりと定め、早急に民間会社と情報収集や具体策について話し合いを行い、具体的な事業化を進める必要がある。松伏町は、公共交通網を寸断する山や谷もなく恵まれた環境にあると感じた。

以上

横瀬町面談者

1. 井上 雅国 副町長
2. 小俣 裕哉 まち経営課 連携推進室
3. 福井 康 まち経営課 主任
4. 田端 将伸 連携推進室長

小鹿野町面談者

付属資料参照